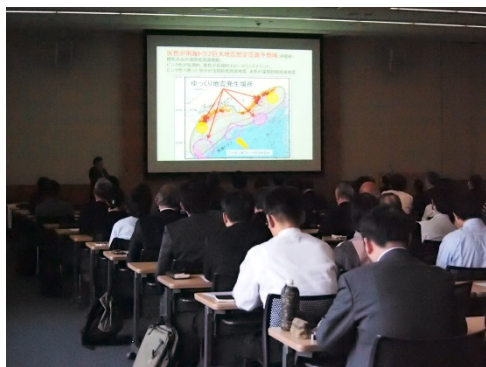


# ～官庁施設(公共建築)の防災・減災～

平成27年度「公共建築の日」及び「公共建築月間」イベント報告



「公共建築の日(11月11日)」及び「公共建築月間(11月)」に合わせて、(一社)公共建築協会近畿地区事務局の主催、近畿地方協力支援会議(近畿地整、近畿管内の府県政令市で構成)の後援で、11月24日にイベントを実施しました。

今年のテーマは、阪神・淡路大震災から20年、節目の年に当時を振り返り、官庁施設(公共建築)の復興及びその後の他の地震での状況等を含めた今後の防災・減災の対応について考えるということで、追手門大阪城スクエアにおいて講演会とパネル展を開催しました。

●講演会及びパネル展 日時:平成27年11月24日(火)講演会:14:30～16:30 パネル展:13:00～17:00  
場所:追手門大阪城スクエア6階大ホール

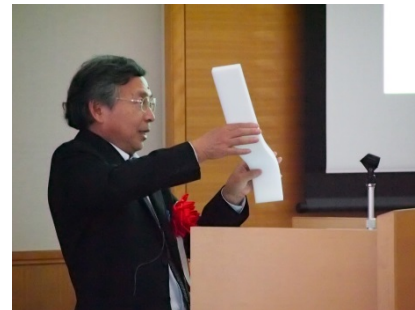
○基調講演 ～阪神・淡路大震災から20年、公共建築の復興～ 講師:京都工芸繊維大学  
教授 小坂郁夫氏

○事例紹介 ～神戸地方合同庁舎の被災状況と免震改修～ 講師:株式会社フジタ西日本支社九州支店  
工事長 大坪裕和氏

●参加者:107人  
官公庁:53人 民間企業等:49人 一般:3人 学生:2人



白川営繕部長の挨拶



小坂郁夫氏



大坪裕和氏

今回は、パネル展も開催しました。内容は、公共建築免震改修工事事例等及び「あすなる夢建築」大阪府公共建築設計コンクールグランプリ作品展を同時開催。パネル展も盛況の内に終了しました。

## パネル展の状況



## 講演の内容

小坂教授からは、阪神・淡路大震災から20年、節目の年に当時を振り返り、現地調査資料を使って、構造形式別、年代別に被害状況を模型を使い分かりやすく説明していただきました。

また、官庁施設(公共建築)の復興及びその後の他の地震での状況等を含めた防災・減災の状況及び地震のメカニズムについて最新の研究をもとに、スマトラ沖地震、十勝沖地震、三陸はるか沖地震、東北地方太平洋沖地震、東海地震、東南海地震、南海地震を題材に説明していただきました。

大坪工事長からは、神戸地方合同庁舎の免震改修工事について苦労話等を盛り込みながら説明していただきました。地上9階・地下1階・延べ面積15,978㎡に常時1,000人以上が利用する、居ながら工事で、免震装置を既存耐圧盤の下部に設置するという難工事について、兵庫県南部地震で被災した杭頭の補修というあまり事例がない工事を高度な安全管理が要求されたことに触れ、施工中の水平耐力の確保、鉛直変位の計測を厳格に管理を行ったこと等を工事写真と模式図を使いながら判りやすく説明していただきました。

## 参加者の声

アンケートでは、約93%の方々に「良く理解できた」等の好評をいただきました。外に、回答として、

「20年経った神戸の震災を再認識した。」

「苦労が良く判った。」

「今後の業務に生かせる貴重なお話で良かったと思います。」

「大変良い企画でした。」

「参考になるので、広く広報してほしい。」

「免震改修工事は非常に複雑な工事でありましたが、写真と図面を使用して順序よく説明していただいたのでわかり易かった。」

など、多くの参加者から意見等を頂くことが出来ました。

ご協力ありがとうございました。